

聞きたるまゝ

泉鏡花

青空文庫

われき
 吾聞く、東坡が洗兒詩に、ひとみなこをやしなうてそうめいをのぞむ。我
 れそうめいをかうむりていつしやうをあやまる。がいじぐにしてかつおろかに、さいなくなん
 被聴明誤一生。孩兒愚且魯、無災
 なくこうけいにいたれ
 無難到公卿。

またりはく、こしゆく、さかづきをあげてしゆくすねがふにたにごなく
 又李白の子を祝する句に曰く、揚杯祝願無他語、
 つしんでぐわんぐなるなんぢのちゝにることなかれ。かていせんせいもつ、いかん
 謹勿頑愚似汝爺矣。家庭先生以て如何とな
 す？

われき、むかしごだうし、ぢごくへんさう
 吾聞く、昔は呉道子、地獄變相の圖をつく。せいとひとひとた
 びこれみ、こと、せんかん、つみ、おそ、ふく、しう
 度はを見るや咸く戦寒して罪を懼れ、福を修せざるなく、た
 めに牛肉賣れず、魚乾く。

かん、くわんてい、とき、りうはう、うんかん、づ、ゑが、み、しよ
 漢の桓帝の時、劉褒、雲漢の圖を畫く、見るもの暑を

おほ 覺ゆ。またほくふう 又北風の圖を畫く、見るもの寒を覺ゆ。

呉の孫權、或時、曹再興をして屏風に畫かしむ、畫

伯筆を取つて誤つて落して素きに點打つ。因つてごまかして、

蠅となす、孫權其の眞なることを疑うて手を以て彈いて姫を顧

みて笑ふといへり。王右丞が詩に、屏風誤點惑孫

郎。團扇草書輕内史。

吾聞く、魏の明帝、洛水に遊べる事あり。波蒼くして白

獺あり。妖婦の浴するが如く美にして愛す可し。人の至るを見

るや、心ある如くして直ちに潛る。帝頻に再び見んことを欲して

終に如何ともすること能はず。侍中進んで曰く、獺や鯔魚を嗜む、

猫にまたゝびと承る。臣願くは是を能くせんと、板に畫いて兩

生せいの鯔魚しぎよを躍をどらし、岸きしに懸かけて水みづを窺うかゞふ。未いまだ數すう分ぶんならざるに、群ぐん獺だ忽たちち競き逐そひお、勢いき死おひを避さけず、執とら得へて輒すなは獻けんず。鯔魚しぎよを畫ゑがくものは徐じよ景けい山さん也なり。

劉りう填てんが妹いもうとは陽やう王わうの妃ひなり。陽やう王わう誅せせられて後のち追つ慕ぼ哀あ。

傷うして疾やまひとなる。婦ふ人じんの此こ疾めまひ古へより癒いゆること難かたし。時ときに殷いん※

善よく畫ゑがく、就な中かん人ぶくの面おもてを寫うつすに長ちやうず。劉りう填てん密みに計けいを案あんじ、

※に命せいじて鏡きやう中うちう雙さう鸞らんの圖づを造つくらしむ、圖づする處ところは、陽やう王わう

其その寵ちやう姫ひの肩かたを抱いだき、頰ほを相あ合あせて、二ふ人たりニヤくとして將まさ

に寢いねんと欲ほつするが如ごときもの。舌したたるくして面おもてを向むくべからず。

取とつて以もつて乳う媪ばをして妹まい妃ひに見みせしむ。妃ひ、嬌けう嫉しつ火ひの如ごとく、罵の

つて云いはく、え、最もうどうしようねと、病やまひ癒ひえたりと云いふ。敢あて説せつ

あることなし、
吾^{われ}聞^きくのみ。

明治四十年二月

青空文庫情報

底本：「鏡花全集 卷二十七」岩波書店

1942（昭和17）年10月20日第1刷発行

1988（昭和63）年11月2日第3刷発行

※題名の下にあった年代の注を、最後に移しました。

入力：門田裕志

校正：土屋隆

2007年4月9日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

聞きたるまゝ

泉鏡花

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>